

# 第1章 目指す子どもの姿

- 1 四日市市が進める教育の基本的な考え方
- 2 基本目標の達成状況

# 1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

## 「輝く よっかいちの子ども」実現に向けて

子どもたちが将来生きていく社会は、多様で変化が激しく一層複雑化し、解決の道筋が明らかでない問題が多く存在すると予想されます。そのため、子ども自身が身に付けた知識・技能を実生活で応用するとともに、他者と協働しながら問題を解決していく主体的・能動的な能力としての「社会人になっても通用する問題解決能力」の養成が必要です。

また、教育活動全体を通して、子ども一人一人の実態や課題を踏まえ、豊かな人間性と感性を培うこと、さらに仲間づくりを進めるなかで、集団の中での協調性や他者を思いやる心を育むこと、個々の自主性・自立性を育てること、人権尊重の意識を醸成することが大切です。

本市では、「四日市市教育大綱」を定めるとともに、本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画として「第3次四日市市学校教育ビジョン」を策定し、「社会人になっても通用する問題解決能力」を身に付け、学校での学びを自分自身の人生の充実・幸せや将来の社会貢献につなげていく「輝く よっかいちの子ども」の育成を目指しています。

### ○四日市市教育大綱 ～5つの理念～

- 1 社会人になっても通用する問題解決能力の養成
- 2 豊かな人間性と健やかな体の育成
- 3 夢や志の実現に向け、自ら学び続ける意欲・態度の涵養
- 4 家庭、地域、学校・行政が連携・協働した教育の実現
- 5 都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進



### ○第3次四日市市学校教育ビジョン ～6つの基本目標～

「子どもにつけたい力」

- 基本目標 1. 確かな学力の定着
- 基本目標 2. 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成
- 基本目標 3. 健康・体力の向上

「子どもを支える学校づくり」

- 基本目標 4. 学校教育力の向上
- 基本目標 5. 地域とともにある学校づくり
- 基本目標 6. 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進



## 四日市市の教育理念を実現するための基本的

目指す子どもの姿

**輝く よっかいちの子ども**

### 生きる力

子どもたちが、夢や志を持ち、学ぶことと社会とのつながりを意識しながら、自立した人間としてたくましく生き抜くための力

### 共に生きる力

多様性を尊重する心や豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力などを身に付け、他者と協働し、共に未来を切り開いていく力

### 社会人になっても通用する問題解決能力

自身が身に付けた知識・技能を実生活で応用するとともに他者と協働しながら問題を解決していく主体的・能動的な能力

### 確かな学力

- ▶ 基礎的・基本的な知識及び技能
- ▶ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力
- ▶ 学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

### 豊かな人間性とコミュニケーション能力

- ▶ 自律的に活動する力、規範意識
- ▶ 豊かな感性、優しさ、思いやり
- ▶ 多様性を尊重し、他者と協働しながら創造的に生きる態度
- ▶ ものごとを最後までやり遂げる粘り強さ
- ▶ 豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力

### 健康・体力

- ▶ 生涯を通じて心身ともに健康でたくましく生きるための体力
- ▶ 運動やスポーツに親しむ気持ち、発達段階に応じた運動習慣
- ▶ 心と体を健やかに育む基本的な生活習慣の確立

### 学校教育力の向上

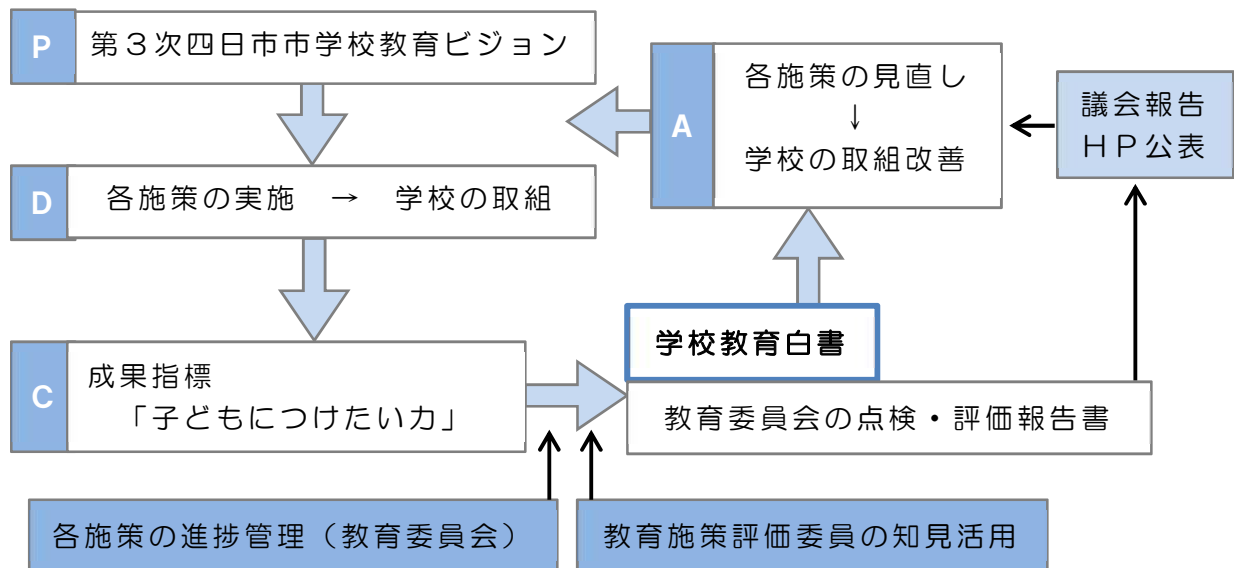
地域とともにある学校づくり

四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

■■■■ 第1章 目指す子どもの姿  
■■■■ 1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

本市では、目指す子どもの姿の実現のため、特に「子どもにつけたい力」基本目標1～3について、成果指標に基づく評価を実施しています。

また、基本目標の各教育施策については、具体的な取り組み指標に基づき、取り組みの進捗管理及び評価をしています。



本白書は、子どもたちの今の姿や学校の取り組みの現状、今後のあるべき姿を表すとともに、教育委員会の点検・評価報告書の役割も担っています。

## 2 基本目標の達成状況

第3次学校教育ビジョンの「子どもにつけたい力」基本目標1～3について、成果指標に基づいた評価を実施します。

### (1) 「基本目標1. 確かな学力の定着」の達成状況

#### ① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着

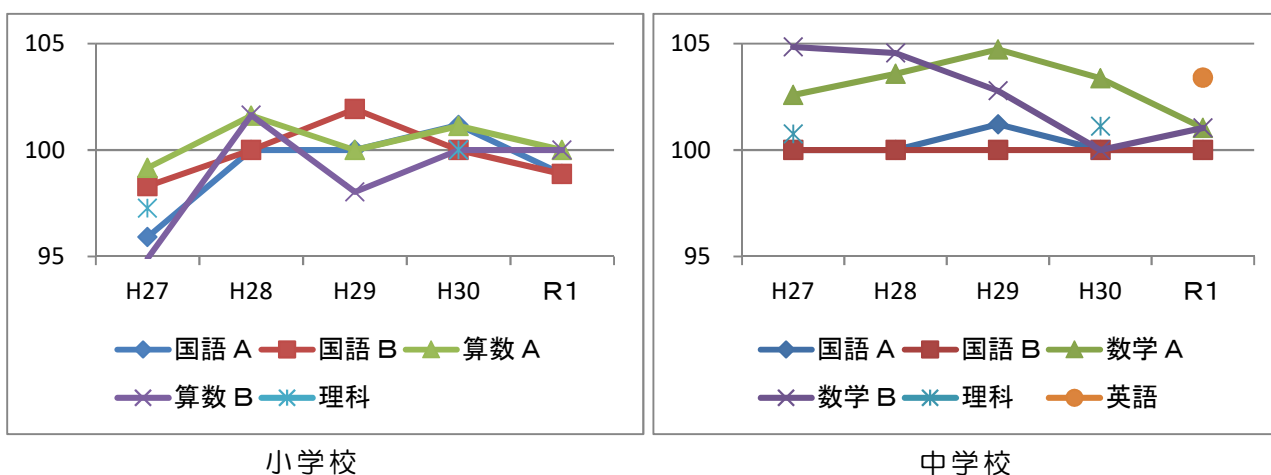
成果指標		現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標	
①	全国学力・学習状況調査結果 (小6…国A、国B、算A、算B、理) (中3…国A、国B、数A、数B、理)	小	97.4	100.5	100.0	100.4	98.9		102
	全国平均値を100としたときの全科目の市平均値	中	101.3	102.0	102.1	100.8	102.5		105

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

基礎的・基本的な知識及び技能の定着については、全国学力・学習状況調査結果における全国平均値を100としたときの全科目の市平均値を成果指標とし、小学校102、中学校105を目標値としています。

令和元年度、小学校は国語で全国平均を下回り、算数は、全国と同等の結果でした。中学校においては、国語は全国と同等の結果で、数学と英語については、全国平均を上回る結果でした。特に、初めて実施された英語は、全国平均を2ポイント上回っており、本市の強みとなっています。本市では、小中学校の指導体制の一体化による授業改善を推進しており、義務教育修了時において、全国と同等あるいはそれ以上の学力を各教科とも身に付けているということが分かります。

全国値を100としたときの本市結果の経年変化（平成27年度～令和元年度）



小学校では、国語がやや低下しましたが、平成28年度以降は、多くの教科が100を超えるか、同等であり、平成27年度から改善傾向にあります。中学校では、5年間すべての教科において、全国と同等以上ですが、平成27年度から29年度にかけて105に近かった数学においてやや低下してきています。

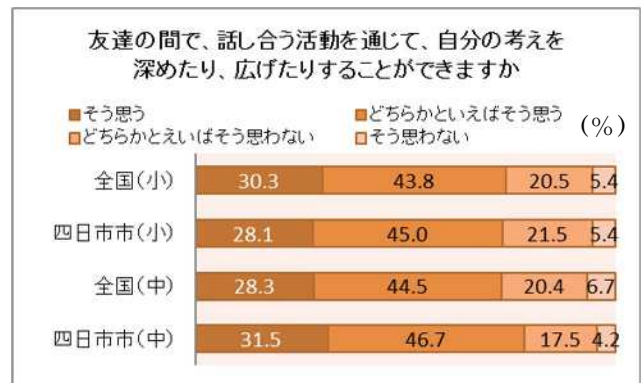
第1章 目指す子どもの姿  
1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
②	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合（％）	小	63.2 (全国 66.9)	67.9 (68.3)	67.3 (68.2)	77.6 (77.7)	73.1 (74.1)		80
		中	65.6 (全国 62.9)	67.0 (64.8)	66.3 (64.8)	79.3 (76.3)	78.2 (72.8)		80

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成では、全国学力・学習状況調査の質問項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校とも80％を目標値に設定しています。



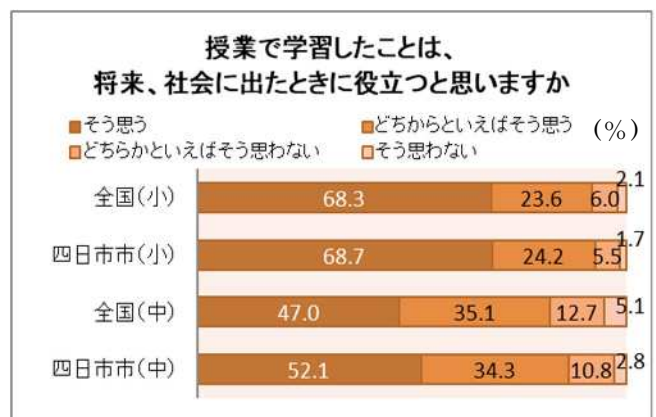
令和元年度は、本市、全国とも平均値が低下していますが、中学校では目標値に近い値です。読解力向上について重点的に指導するとともに、学校教育活動全体で言語活動の充実を図ることで、思考力・判断力・表現力を高めていきます。

③ 学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
③	「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合（％）	小	89.5 (全国 89.5)	91.4 (89.6)	90.0 (88.5)	92.0 (90.3)	92.9 (91.9)		95
		中	79.3 (全国 78.4)	81.3 (78.1)	83.0 (77.9)	78.8 (72.9)	86.3 (82.1)		85

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

全国学力・学習状況調査の質問項目「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校95％、中学校85％を目標値に設定しています。令和元年度は、小学校、中学校とも前年よりも伸びています。中学校は目標値を上回りました。「なぜ学ぶのか」といった学ぶことの目的意識や「学んだことが将来へどのようなつながるのか」といった将来への展望を持たせるとともに、夢や志の実現のために「学び続ける態度」の育成を図ります。



第1章 目指す子どもの姿  
1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

(2)「基本目標2 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成」の達成状況

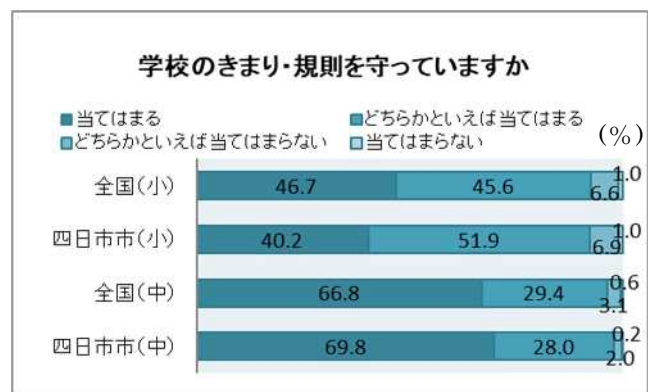
① 自律的に活動する力、規範意識

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
①	「学校のきまり(規則)を守っていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	91.1 (全国91.1)	91.1 (91.5)	92.9 (92.6)	89.0 (89.5)	92.1 (92.3)		95
		中	95.3 (全国94.4)	96.5 (94.7)	97.1 (95.2)	96.9 (95.1)	97.8 (96.2)		97

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目「学校のきまり(規則)を守っていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校95%、中学校97%を目標値に設定しています。

令和元年度は、小学校、中学校ともに前年度よりも伸びています。中学校では目標値に達しています。引き続き、道徳科をはじめ、日々の学校生活においてルールを守ることの大切さを伝えていく指導を行い、規範意識を育みます。



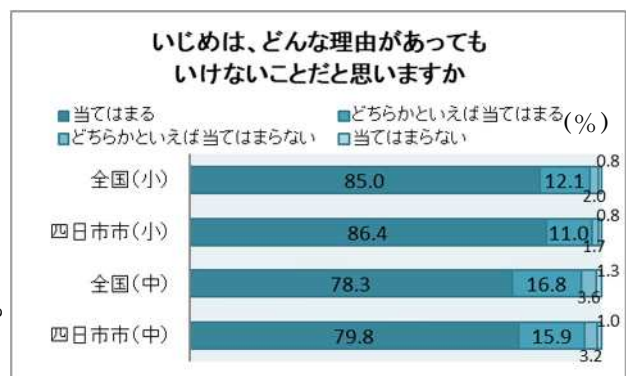
② 豊かな感性、優しさ、思いやり、多様性を尊重し他者と協働しながら創造的に生きる態度

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
②	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	96.5 (全国96.2)	97.9 (96.6)	96.6 (96.1)	97.9 (96.8)	97.4 (97.1)		100
		中	93.3 (全国93.7)	93.0 (93.6)	92.5 (92.8)	96.3 (95.5)	95.7 (95.1)		100

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校とも100%を目標値に設定しています。

令和元年度は、小・中学校ともに前年よりやや低下しましたが、引き続き95%を上回っています。いじめについては、絶対に許されないということを理解し、全教育活動を通じて、学校生活の中で実践できるよう、粘り強く指導していきます。



第1章 目指す子どもの姿  
1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

③ ものごとを最後までやり遂げる粘り強さ

成果指標			現状値*	H29	H30	R1	R2	目標
③	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	79.5 (全国 77.8)	78.7 (77.9)	77.8 (76.7)	77.9 (77.7)		80
		中	77.2 (全国 73.8)	79.0 (74.9)	76.3 (73.8)	80.5 (74.8)		85

※ 現状値は、平成28年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目の「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」において肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校80%、中学校85%を目標値に設定しました。

令和元年度は、小学校・中学校とも前年度より伸びました。中学校では、平成28年度以降、全国平均値を大きく上回っています。今後も、児童生徒が主体的に考え取り組むよう、授業において問題意識を持たせるとともに、達成感の伴った振り返りができるように、さらに授業改善を進めていきます。

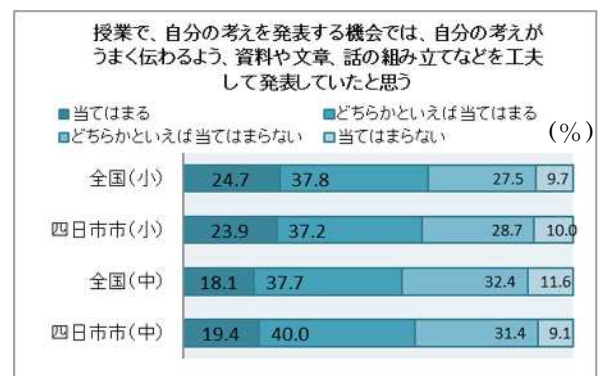


④ 豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力

成果指標			現状値*	H29	H30	R1	R2	目標
④	「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」において肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	64.4 (全国 64.2)	65.8 (64.9)	60.8 (61.0)	61.1 (62.5)		70
		中	59.7 (全国 57.7)	59.9 (57.9)	54.9 (53.8)	59.4 (55.8)		62

※ 現状値は、平成28年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目の「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校70%、中学校62%を目標値に設定しました。令和元年度は、小学校、中学校とも伸びました。中学校は全国平均値を3ポイント以上、上回っています。今後も児童生徒の考えや意見を発表する場を設け、適切に表現する力の育成を推進します。





第1章 目指す子どもの姿  
1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

(3)「基本目標3 健康・体力の向上」の達成状況

① 生涯を通じて心身ともに健康でたくましく生きるための体力

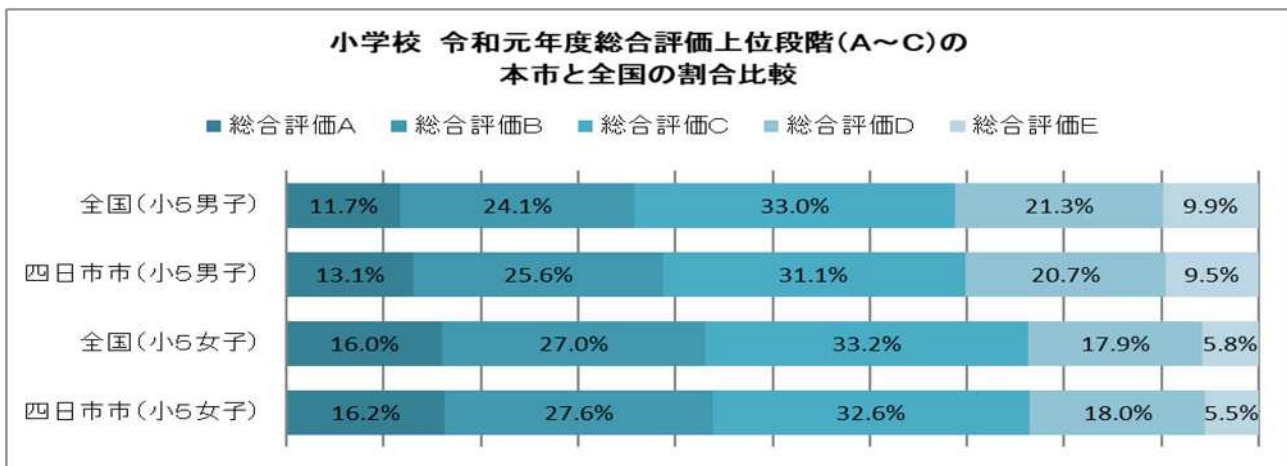
成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
① 全国体力・運動能力、 運動習慣等調査 児童生徒の総合評価 (A～Eの5段階)で 3段階以上(A～C) の児童生徒の割合 (%)	小	男子	66.9 (全国70.1)	67.4 (70.3)	71.0 (71.2)	71.1 (71.2)	69.8 (68.8)		75
		女子	70.2 (全国75.1)	74.0 (76.3)	75.3 (77.0)	76.9 (77.5)	76.4 (76.2)		75
	中	男子	74.2 (全国71.1)	72.7 (71.8)	73.0 (71.7)	74.4 (72.3)	67.6 (69.8)		75
		女子	85.5 (全国86.6)	89.8 (87.5)	90.2 (88.1)	91.0 (89.2)	88.8 (88.4)		90

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

全国体力・運動能力、運動習慣等調査児童生徒の総合評価（A～Eの5段階）で3段階以上（A～C）の児童生徒の割合を指標とし、小学校及び中学校男子において75%を、中学校女子において90%を目標値に設定しています。

○小学校の状況

男子では総合評価A～Cの生徒の割合は69.8%（全国比プラス1.0ポイント）、女子では76.4%（全国比プラス0.2ポイント）となり、過去5年間で初めて全国平均値を上回る結果となりました。これは、子どもたちが、授業の中で多様な体の使い方を身に付けたり、自分の持っている力を出し切ったりするなど、男女ともに少しずつ体力が向上してきている結果であると捉えることができます。



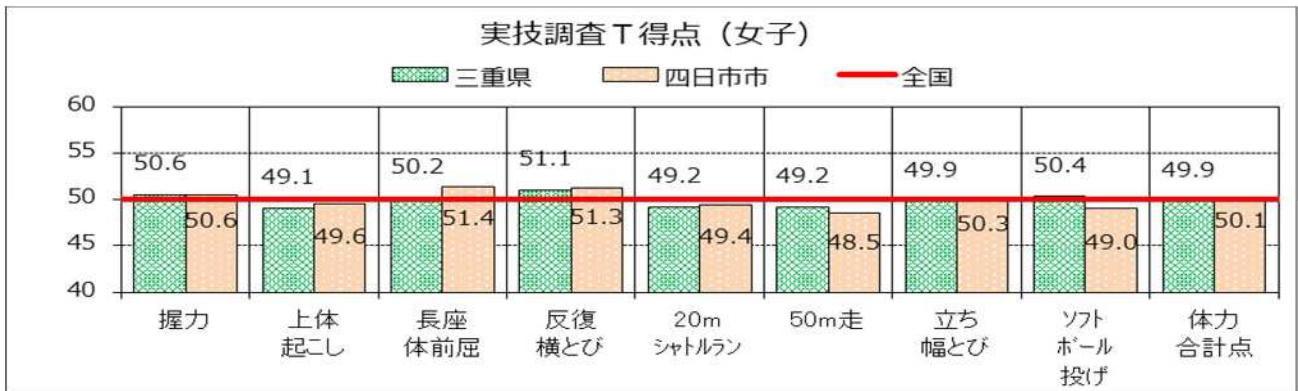
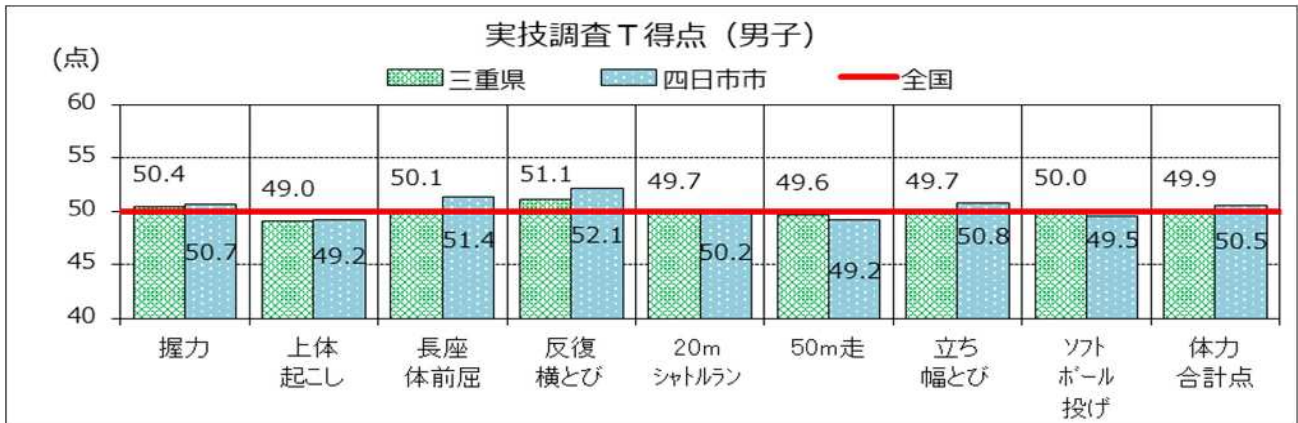
種目別に見ると、とくに長座体前屈や反復横跳びについては、全国平均値を大きく上回っており、柔軟性、俊敏性の高さが本市の特徴であるといえます。しかし、依然として走・投の力や上体起こしに必要な筋力については、全国平均値を下回っていることから、本市の小学生にとって課題となっている種目であるといえます。

本市の特徴である柔軟性や俊敏性の高さは、体育の授業においては、体づくり運動領域やボール運動領域、陸上領域などで、活動をとおして子どもたちが体の使い方や動き方を身に付けることができていると捉えることができます。課題となっている走・投の力や

# 第1章 目指す子どもの姿

## 1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

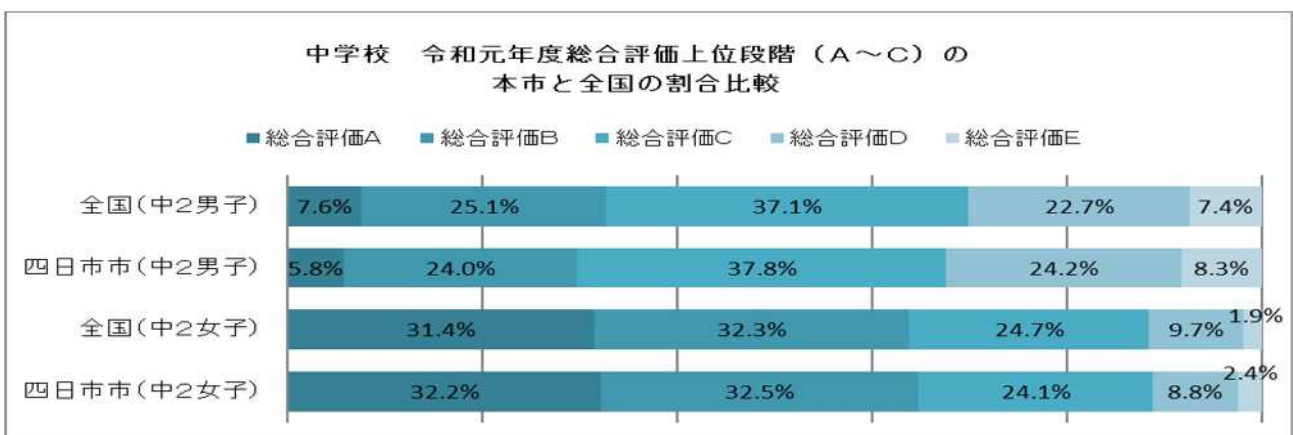
上体起こしに必要な筋力については、日常の生活の中で、思い切り走ったり投げたりする環境が少なくなっていることや、陸上運動領域や体づくり運動領域など体育の授業において、思い切り走ったり投げたりするような場づくりを充実させきれていないことが課題と考えられます。



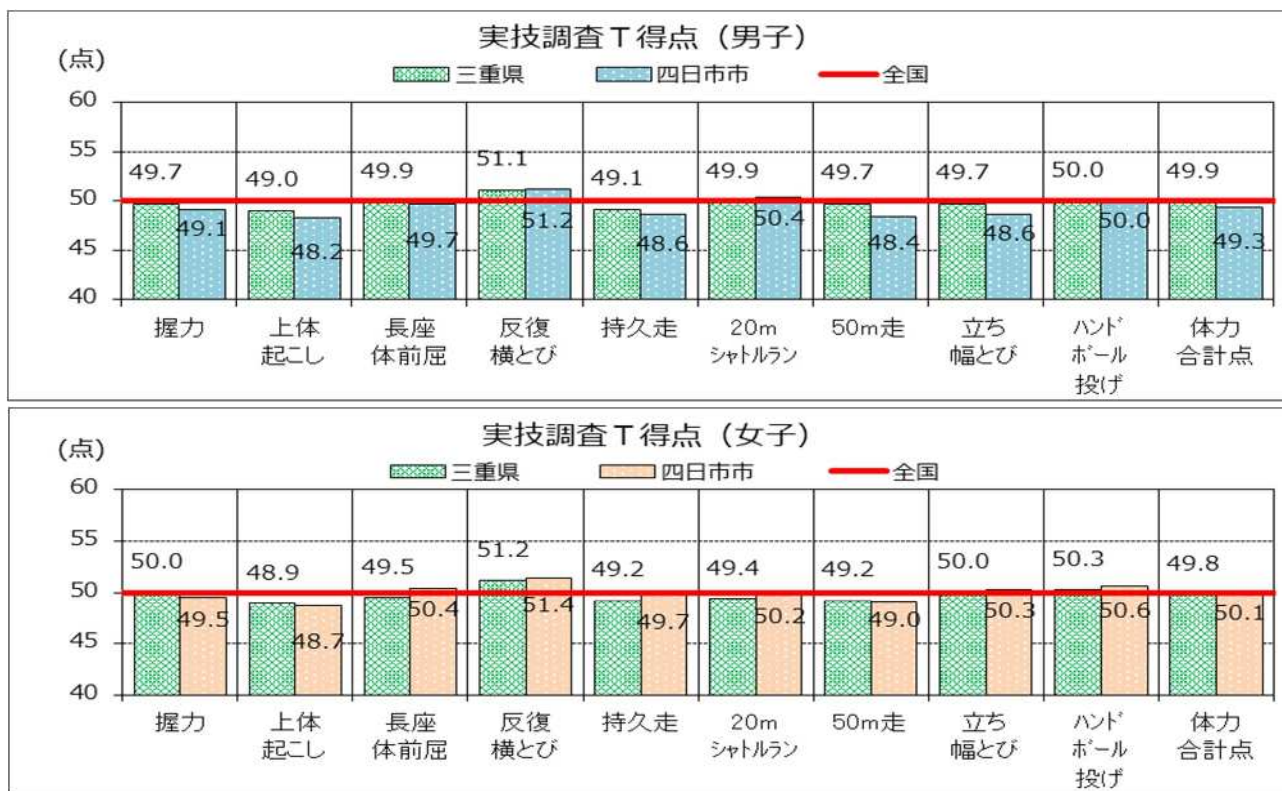
小学校 実技調査種目別の全国・三重県との比較  
 ※T得点：全国平均値を50として差を明確に表示したもの

### ○中学校の状況

男子では総合評価A～Cの生徒の割合は67.6%（全国比マイナス2.2ポイント）、女子では88.8%（全国比プラス0.4ポイント）となり、男子が過去5年間で初めて全国平均値を下回りました。男子においては、A・B判定が全国を下回り、C・D・E判定が全国を上回っていることから体力の低下傾向が顕著となっています。女子においては、A・B判定とE判定が全国より高いことから二極化の傾向がみられます。



第1章 目指す子どもの姿  
1 四日市市が進める教育の基本的な考え方



中学校 実技調査種目別の全国・三重県との比較  
※T得点：全国平均値を50として差を明確に表示したもの

種目別に見ると、中学校男女ともに反復横跳び、ハンドボール投げについては全国平均値と同等あるいは全国平均値を超えています。反復横跳びについては、小学校男女とも全国平均値を超えていることから、四日市市の子どもたちは比較的、俊敏性が高いといえます。一方、男女ともに、握力、上体起こし、50m走については、ほぼ毎年全国平均値を上回ることができていません。とくに走ることににおいては、小学校でも全国平均値を下回っていることから、本市の小・中学生にとって課題となっている種目といえます。

中学校では、過去の数値を見ても、継続して俊敏性や投てき力が高いことから、体育の授業や運動部活動をとおして、これらの力を効果的につけるような取組が成果として表れてきています。課題となっている握力や上体起こしについては、日常生活の中で、これらの力を高めるような場面が少なくなってきたことが原因と考えられます。

本市では、平成29年3月に体育・保健体育科授業で大切にポイントを示した「四日市版 体育授業ガイドブック」を作成し、各校に配付しました。

小・中学校ともに、教員の得手不得手に影響されることなく、子どもたちにつけたい運動能力や体力が向上するように、体育科・保健体育科の授業改善を重点的に取り組む必要があります。

第1章 目指す子どもの姿  
1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

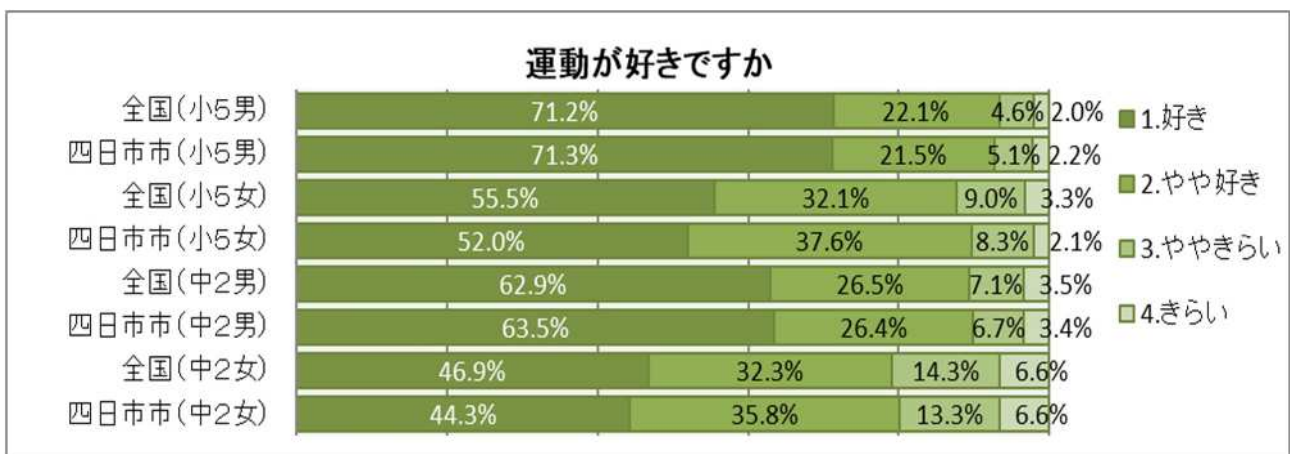
② 運動やスポーツに親しむ気持ち、発達段階に応じた運動習慣

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
②	「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」において、「好き」と回答をした児童生徒の割合（%）	小	男子 75.0 (全国 74.0)	71.3 (73.0)	74.6 (73.2)	71.5 (72.9)	71.3 (71.2)		80
			女子 56.3 (全国 56.4)	54.2 (56.7)	53.2 (56.4)	51.0 (55.5)	52.0 (55.5)		60
		中	男子 66.3 (全国 65.0)	65.3 (63.6)	63.5 (63.4)	61.0 (63.5)	63.5 (62.9)		70
			女子 49.3 (全国 48.0)	50.0 (46.9)	46.0 (47.1)	45.3 (47.5)	44.3 (46.9)		53

※ 現状値は、平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（小学校5年生・中学校2年生対象）

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問項目「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。」の問いに対して「好き」と答えた児童・生徒は、小学校、中学校ともに男子は全国平均値を上回りましたが、女子については、全国平均値を下回りました。昨年度、全国平均値との差が最も大きかった小5女子は、差が約3.5ポイントと1ポイント縮まりました。

ただ、平成27年度をピークに年々、「運動が好き」と答える児童・生徒が下方傾向にあり、運動することなど日常的に体を動かすことについては、依然として課題となっています。子どもたちが体育科・保健体育科の授業の中で、「楽しい」「できた」「わかった」「やってみたい」などという感覚を味わうことや達成感をもつことができるような工夫が必要です。



第1章 目指す子どもの姿  
1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

③ 心と体を健やかに育む基本的な生活習慣の確立

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
③	「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合の平均値（%）	小	89.2 (全国 88.7)	89.8 (88.8)	89.6 (88.8)	86.3 (86.8)	89.9 (89.4)		93
		中	86.0 (全国 86.9)	86.8 (86.9)	87.8 (87.1)	85.7 (85.5)	87.9 (88.0)		90

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

全国学力・学習状況調査の質問項目「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合の平均値を指標とし、小学校において93%、中学校において90%を目標値に設定しています。

全国と同様、本市においても、小学校、中学校とも昨年より伸びました。小学校では、すべての項目において、肯定的な回答をした割合は全国平均値を上回りました。

中学校では、「朝食を毎日食べている割合」は全国平均を上回り、「毎日、同じくらいの時刻に起きる割合」は全国平均値と同等、また「毎日、同じ時間に寝る割合」は、全国平均値より低い値です。

本市では、学校、家庭、地域が連携して、子どもの生活リズムの向上を推進する取り組みを行っています。規則正しい生活ができている児童生徒は学力が高い傾向にあることも学力・学習状況調査の結果から示されています。多くの児童生徒は規則正しい生活ができていますが、今後も、家庭、地域との連携を深め、全ての子どもの生活リズム向上に向けた取り組みを進めていきます。

